

困	ロ	た		子	害	う	と	た	会		者	そ	な	思	子	で			
難	ナ	年	そ	に	者	な	が	も	が	出	の	ん	服	わ	供	生			
続	禍	、	ん	な	で	関	が	の	始	会	友	な	な	れ	扱	活			
き	で	コ	な	る	あ	係	だ	だ	ど	っ	人	私	な	な	い	し			
の	の	ロ	彼	感	る	性	が	が	な	た	が	に	ど	い	を	て			
日	生	コ	女	覚	こ	で	、	、	く	当	い	は	を	が	受	い			
々	活	ロ	が	が	と	あ	今	、	、	時	る	、	見	け	け	る			
だ	は	ウ	大	あ	を	あ	で	、	、	は	。〇	の	る	た	り	。〇			
っ	、	イ	学	っ	忘	。〇	は	、	、	、		が	の	り	な	身			
た	障	ル	を	た	れ	。〇	カ	、	、	同		好	が	な	長	長			
。〇	害	ス	卒	。〇	て	。〇	ラ	、	、	年		き	が	、	が	低			
し	者	の	業		一	。〇	オ	、	、	来		な	あ	、	く	見			
か	の	私	し		人	。〇	ケ	、	、	の		二	り	、	ら	れ			
し	私	に	、		の	。〇	や	、	、	女		十	、	、	が	ち			
、	と	と	社		二	。〇	買	、	、	子		代	、	、	で				
こ	っ	っ	会		十	。〇	い	、	、	と		半	お	、	、				
の	て	。〇	人		代	。〇	物	、	、	話		ば	し	、	と				
友	辛	コ	に		の	。〇	に	、	、	す		で	ゃ	は					
人	く		な		女	。〇	行	、	、	る		あ	れ						
と			っ		の	。〇	く	、	、	こ		常	、						

し	出	も	た	で	か	聴	こ	様	や	E	一	彼	生	働	れ	て		与	の
て	か	う	に	き	ら	い	と	々	り	や	つ	女	活	も	る	い		え	コ
も	け	一	に	て	、	て	を	な	取	電	は	に	の	な	と	た	て	コ	
ら	け	つ	で	と	、	あ	実	な	り	話	お	、	な	く	い	私	て	ロ	
い	・	は	き	と	「	げ	感	事	を	で	互	私	か	、	う	に	て	ナ	
、	料	、	そ	も	あ	る	し	で	通	報	い	が	、	知	こ	も	て	禍	
外	理	、	う	嬉	り	こ	た	悩	し	告	の	で	り	と	と	、	も	の	
出	「	、	な	し	が	と	。	み	て	し	仕	可	合	だ	身	の	交		
気	だ	、	こ	く	と	は	介	な	、	あ	事	る	い	。	近	流	は		
分	。こ	、	を	、	「	で	助	が	障	い	の	こ	が	県	な	は	、		
を	れ	見	見	こ	と	き	が	必	が	、	こ	と	い	外	人	私	に		
味	は	つ	つ	れ	言	る	必	要	い	励	と	は	な	に	の	二	二		
わ	、	ける	ける	か	っ	と	な	な	の	ま	い	い	い	配	心	つ	つ		
っ	外	こと	こと	ら	た	わ	私	私	有	し	か	か	中	属	の	の	の		
た	出	が	が	先	。相	か	で	も	無	合	？	と	の	さ	支	気	気		
り	先	で	で	の	手	っ	も	、	に	う	と	考	新	れ	え	づ	づ		
、	か	きた	きた	活		た	話	話	関	こ	え	え	社	て	「	き	き		
私	ら	。新	。新	動		。新	を	い	わ	と	た	た	会	、	に	を	を		
が	中			で				う	ら	だ	た	人	土	な					
レ	継			新				い	ず	。新	た	地	地	な					

が	名	で	と	り	し	い	出	生	綱	行	だ		い	の	ク	か	内	が	シ
あ	古	彼	を	リ	た	た	も	活	と	に	と	二	合	最	ス	っ	容	ら	ピ
っ	屋	女	き	フ	。友	昨	必	が	な	行	思	つ	う	後	し	た	は	、	を
た	旅	が	っ	レ	人	年	要	メ	っ	く	っ	目	の	に	よ	。一	、	わ	読
。何	行	住	か	ッ	が	十	最	イ	、	こ	て	の	は	、	う	旦	、	い	み
より	を	ん	け	シ	、	二	限	ン	約	と	い	が	「	、	と	、	レ	わ	上
も	決	で	に	ユ	「遊	月	に	に	三	が	た	ま	、	一	い	ビ	い	話	げ
不	断	い	、	し	び	、	な	な	年	で	。ヘ	、	週	、	う	の	話	す	カ
安	す	る	準	よ	に	私	り	っ	間	、	ル	一	間	一	目	な	と	と	メ
だ	る	ま	備	う	来	は	、	。へ	、	い	人	頑	週	、	的	ど	い	ラ	
っ	ま	で	を	！	な	人	心	ル	職	う	で	張	、	あ	が	仕	う	の	
た	に	は	始	と	、	生	身	バ	場	こ	の	る	っ	っ	あ	事	も	向	
の	幾	つ	め	言	「思	初	共	ー	と	と	遠	う	た	、	っ	以	の	こ	
は	つ	も	、	っ	い	の	に	さ	家	だ	出	」	か	、	ら	外	だ	う	
、初	の	の	初	て	っ	過	限	ん	と	。コ	は	ら	ら	、	だ	の	。毎	で	
の	不	の	の	く	き	呼	界	と	の	ロ	不	だ	電	、	だ	話	回	料	
宿	安	の	一	れ	き	吸	が	の	往	コ	可	。電	話	、	だ	話	話	理	
			人	た	き	を	き	の	復	ロ	能	話	多	、	だ	す	す	し	
				こ	き	起	て	外	の	ナ					だ		な	な	

泊旅行でありながら、長らく私の介助をして
いなかった友人に、うまく介助の手順を説明
できるかどうかだった。前日までにできる限
りの対策を行っていたが、それでも実際行つてみ
ると、不安は的中し、結果的に反省の多い旅
になった。例えば、地図の方向を読みとるこ
とに慣れておらず、飲食店へ向かう際、予定
より四十分以上かかかってしまったり、ホテル
に着いてから、疲れのあまり必要な指示を放
棄して、眠り込んでしまい、友人を困らせて
しまう場面があった。このように、当たり前
だと思っていた日常生活からすこし離れてみたこ
とで、ヘルパーさんや母が、いかに先回りし
てサポートしてくれていたかを実感すること
が出来た。介助の指示出しの大切さと難しさ、
両方を感じた、学びの多い一泊二日となった。
コロナ禍で、オンラインツールが普及し、必
ずしも、対面でなくとも、顔を見て会話が出
来るようになった。しかし、実際に会い、街
の雰囲気を感じながら、過ごし、た二日間、

